

女性団体ネットワークによる女性の社会参画促進

～海匠農山漁村女性団体ネットワークの取組～

1 課題の目的

海匠地域の農山漁村女性は経営主のパートナーとして重要な役割を果たしているが、指導農業士等の認証者や農業関係の委員等は少なく、女性の社会参画が進んでいない。そこで、女性団体リーダーや各地域の女性リーダーでネットワーク化し、女性の社会参画を進めることをねらいとした。

2 課題の背景

(1) 男女共同参画の推進については、第4次男女共同参画基本計画に合わせ、女性の社会参画の目標値や行動計画等を樹立して進めているが、海匠地域では、女性の社会参画は、国の示す目標値より進んでいなかった。

特に、農業委員や指導農業士等に占める女性の割合は少なく、早急に対応が必要であった。

(2) 管内の女性団体は団体毎に独自に社会参画の目標値を設定していたが、女性の社会参画を進めるためには各団体がネットワーク化し、女性の声を関係機関に届ける等、体制整備が必要であった。

3 普及活動の経過

(1) 女性の社会参画を進めるためには、女性団体リーダーや女性農業委員等社会参画をしている女性リーダーがネットワーク化して、女性の能力向上のための研修会や役職員に働きかけることが必要不可欠であった。そこで、上記女性リーダーに、平成20年9月に海匠農山漁村女性団体ネットワークの結成について働きかけ、同意を得た女性リーダーで規約（案）を作成し、目的や活動を明確にした。ネットワークに会長・副会長をおき、会の運営や研修会活動への助言を行ってきた。

(2) 男女共同参画海匠地区推進会議の委員として、ネットワーク会長・副会長が任命されるよう働きかけ、関係機関との連携強化を図りながら女性の社会参画を進めることとした。また、各組織の活動計画にも位置付け、農協女性部等は、役職員との話し合いを年間行事とした。また、女性農業委員登用の要望書をネットワーク代表者連名で提出した。

(3) 女性の社会参画を進めるために啓発活動や研修会が実施できるよう、海匠農山漁村女性団体ネットワーク会議で企画や運営について検討した。また、啓発活動として平成20年から29年まで10年間、ネットワークとして主体性を持って企画・運営できるよう支援した。

表 1 啓発活動の経過

期日 (平成)	主 内 容	参加人数
20年 8月5日	農産漁村いきいきフォーラム (平成22年度まで) 講演「みかん農家のおばちゃん芸能界デビュー」 講師：みかん山プロダクション 辻イトコ氏	260名
21年 7月31日	講演「自らの改革で築くパートナーシップ社会」 講師：福島県男女共同参画センター「あすばる」館長 中嶋玲子氏	263名
22年 7月29日	講演「1次産業をかつこよくて、感動があつて、稼げる3K産業に！」 講師：NPO法人こせがれネットワーク代表 宮治勇輔氏	260名
23年 7月29日	農山漁村いきいき女性研修会 講談及び講演「いきいきと輝いた人生を送るには」 講師：田辺鶴瑛氏 (講談師)	105名
24年 7月19日	女性リーダー研修会 講演「経営に活かす家族経営協定」 講師：東京農業大学准教授 五條満義氏	52名
25年 8月2日	パートナーシップ研修会 (平成29年度まで) 講演「組織力を発揮して農業発展と地域の活性化を」 講師：いばらぎ農村女性ネットワーク会長 原範子氏	64名
27年 10月7日	事例発表「経営を支える家族、私が行っていること」 講師：丸晴子氏 (富津市)	48名
27年 12月4日	事例発表「地域から信頼される高橋農場を目指して」 講師：千葉県指導農業士 高橋克江氏 (香取市)	39名
28年 10月5日	講演「地域活性化に活かそう女性の力」 講師：NPO法人農とくらしの研究センター理事 諸藤享子氏	42名
29年 9月29日	講演「農外企業のノウハウを活かした新時代の農業経営！」 講師：(株)ドロップ代表取締役 三浦綾佳氏	135名

4 普及活動で得られた成果

- (1) 海匠農山漁村女性団体ネットワークで実行委員会を組織し、長年にわたり啓発活動を行った結果、延べ1221名が研修会に参加した。また、ネットワークでの活動の積み重ねにより女性の社会参画者が増加した。

延べ人数で、千葉県指導農業士8名、千葉県農業士7名、千葉県漁業士4名、女性農業委員13名、JA女性理事 経験者9名(3市より1名づつの女性理事登用が定着)、千葉県いきいきアドバイザー12名となり、様々な部門で女性が活躍している。

- (2) 女性の経営参画や社会参画を進めるための環境整備の一つとして家族経営協定の締結が進み、平成20年3月末は178戸だったが、現在は429戸に増加した。

5 問題点と今後の展開方法

海匠農山漁村女性団体ネットワークのリーダーは年齢が60代後半となり、各組織でも後継者育成が課題となっている。今後は、各団体との交流を深めながら次代を担う若手女性農業者の育成に取り組んで行く。

(匠瑳グループ 上席普及指導員 竹内 和江)